

令和4年11月19日

南の風 459

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

458号の続きです。

エイトオフENSEの紹介です。読者の皆さんは「エイトオフENSE」あるいは「エイトクロス」という呼び名をご存じだと思います。エイトクロスと言えば、林永甫ヘッドコーチの名前を思い出します。

元WリーグのJALラビッツのヘッドコーチでWリーグ準優勝3回、2005年全国総合皇后杯では見事優勝を果たしました。今でもマンツーマンオフENSEとして、多くのチームが採用しています。

今回は簡素化した、エイトオフENSEを取り上げます。

エイトオフENSEの良さは、

- ①取り組むのが容易であること
- ②小さいチームでもペイントを攻めやすいこと
- ③U15世代で、パススキルを習得するのにも適している

アライメントは、2ガードの4アウト1インです。フロントのハーフコートで進めます。リングに向かって、フリースローの半円の上の高い位置に、1が右トップ、2が左トップとします。3がやや高い右ウイング、4がやや高い左ウイングです。5は4と同列のスロットラインにポジション取りをします。

2がボールを持ち、1にパスです。そのとき5が4のDEFにスクリーンに行きます。4はペイントにカットします。1からパスが来ればシュートです。1は4にパスできなければ、アングルを変えるために3にパスします。パスが入ればシュートです。このとき、パスした1は必ずアウェーして2とポジションをチェンジします。

だめなときは、4が3のDEFにスクリーンに行きます。3はポジションチェンジした2にパスして、4のスクリーンを使ってペイントカットします。2は1にパスします。1は4にパスするか、だめなら開いてウイングに出た5にパスします。5は4に入ればパスします。だめならまた、ポジションチェンジした2にパスして同じ動きを繰り返します。

このようにして、両ウイングの3と4、5がスクリーン掛けて外に開く。スクリーンを使ってカットする。この一連の動きが8の字のように見えるため、エイト、あるいはエイトクロスと呼ばれています。

林永甫コーチが行っているエイトクロスは、もう少し複雑なのですが、簡素化すれば上記のようになります。

このオフENSEのすぐれている一つ目は、ドリブルが上手な選手や個人スキルが高い選手がいなくても、仕組みがすぐれているので戦術の組み立てが容易であり、得点を取りやすいことです。

二つ目は、単純なオフENSEなので相手に読まれやすいと思いがちですが、コーチが選手に指導するときに教えやすいこと、選手も練習で取り組みやすいことです。そしてU15の選手にとっては、何より試合での再現性が高いことがメリットです。

ドリブルが多くなりがちなミニバス世代には、無用なドリブルを使わずに攻めることが出来、パスの出し方やタイミングを学べる価値あるオフENSEだと思います。